

ひとつまみの幸せ。



# 株主のみなさまへ

## 第63期報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日



株式会社 **なとり**  
証券コード: 2922

# ごあいさつ

この度の東日本大震災におきまして、お亡くなりになられた皆様方のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災されました多くの皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。また、被災地の皆様におかれましては、一日も早い復興がなされますように心よりお祈りいたします。



株主の皆様におかれましては、平素 代表取締役社長 名取 三郎より「なとりグループ」に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第63期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）報告書をお届けするにあたり、改めて皆様の日頃のご支援に深く感謝申し上げます。

第63期は、国内経済における個人消費の回復の遅れや円高の持続、原材料価格の高騰など、当社をとりまく環境は依然厳しいものでございましたが、更なるおつまみ市場の創出と収益力の強化に全社を挙げて取り組んでまいりました。

売上面では、特に常温で持ち運びのできる新製品「いつでも手軽に食べられる おつまみチーズ」を「チーズ鱈」に次ぐ第2の柱とすべく、テレビCMを活用して、ブランド力の向上に注力するなど、新製品を中心とした拡販や、販売強化商品の集中的な市場投入、新規取引先の開拓、既存取引先のシェア拡大の徹底強化などに努め、増収となりました。

利益面では、原料高騰の影響を受け増加した原料調達コストを、売上高の増加や、粗利の高い製品の拡販、生産設備導入や現場改善による生産性向上などにより一定量カバーし、売上総利益は増益となったものの、積極的に販売促進活動を実施したことや、ブランド力強化の為のテレビCMの投入などにより販管費が増加したことで、経常利益は減益となりました。当期純利益は、第62期に当社グループの年金制度変更に伴い、退職給付費用として特別損失を計上していた影響もあり、増益となりました。

第63期は、中期経営計画「イノベーション63～新生なとりへの道～」の最終年度でございました。目標としていた数値はほぼ達成できたものの、収益性向上について、課題が残る結果となっており、更なる地道な努力を重ねていく所存でございます。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

平成23年6月吉日

## 【経営理念】

株式会社なとりとそのグループは、自由闊達にして公正で節度ある企業活動により、食文化の創造と発展を通して、顧客満足・株主還元・社会貢献の実現を図り、社会的に価値ある企業として、この会社に係わるすべての人が誇りを持てる会社を目指します。

## 【ミッション】

素材の風味を活かし、生産・流通・販売において温度帯にとらわれず、手軽に食べられ、様々な食シーンにマッチする、楽しさの演出に欠かせないおつまみをお客様にお届けします。

## 【企業メッセージ】

### ひとつまみの幸せ。

楽しさを演出する、美味しい“おつまみ”を通してお客様に“幸せ”なひとときをお届けしたい。それが、なとりの願いです。

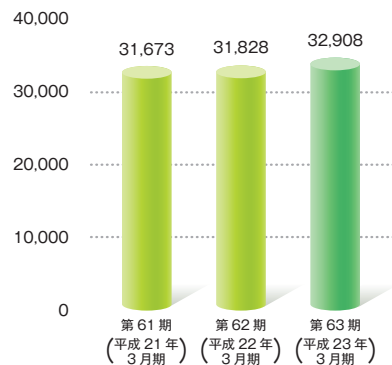
## Contents

ごあいさつ	1
財務ハイライト	2
株主の皆様へ	3
新たな中期経営計画「チャレンジ&イノベーション66」について	4
新製品ピックアップ	5
製品ラインナップ	7
財務の状況	9
開発・生産・営業・物流拠点	12
会社の概要等	13
株式の状況	14

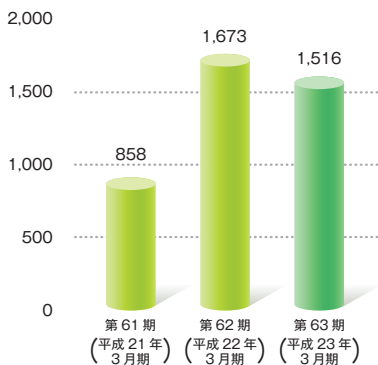
# 財務ハイライト

	第61期 (平成21年3月期)	第62期 (平成22年3月期)	第63期 (平成23年3月期)
売上高 (百万円)	31,673	31,828	32,908
経常利益 (百万円)	858	1,673	1,516
当期純利益 (百万円)	178	550	717
1株当たり当期純利益 (円)	12.07	37.87	49.51
総資産 (百万円)	23,783	25,886	25,198
純資産 (百万円)	13,883	14,319	14,702
自己資本比率 (%)	58.4	55.3	58.3
1株当たり純資産 (円)	954.69	984.68	1,020.10

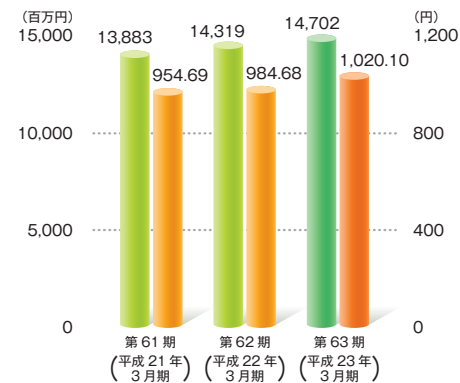
■ 売上高 (百万円)



■ 経常利益 (百万円)



■ 純資産 (百万円)  
■ 1株当たり純資産 (円)



# 株主の皆様へ

## 第63期を振り返って

当連結会計年度における国内経済は、雇用・所得環境など依然厳しい状況が続いており、個人消費は本格的な回復に至りませんでした。新興国を中心とした海外需要の高まりから、一時輸出、生産面に復調の兆しが見られました。食品業界では、消費者の節約志向による低価格商品への要請が依然として強く、食品メーカー各社は引き続き対応に追われました。そうした中で、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、国民生活及び経済活動全体に大きな混乱をきたし、景気の先行きは不透明な状況となっています。

このような状況のもと、当社グループは、更なるおつまみ市場の創出と収益力の強化を目指し、「顧客志向に基づく収益性の高い新製品開発」「売上拡大の取り組み」「継続的なコストコントロール」の3点について、全社を挙げて取り組んできました。

「顧客志向に基づく収益性の高い新製品開発」としては、多極化している消費傾向を踏まえ、多様化したお客様のニーズに 대응していくため、新素材・新技術・新価値・新サービスという4つの切り口で、美味しさと楽しさ、経済性の提供を目指しました。特に新製品「いつでも手軽に食べられる おつまみチーズ」は、「常温で持ち運びが可能」「しっとりなめらかな食感」という当社ならではの特徴が市場から一定の評価を受け、ご好評を頂いています。

「売上拡大の取り組み」としては、当社シェアが低いリージョナルの取引先を対象に、組織の枠を超えたチーム編成で、取引先への提案力と対応スピードを高め、インスタシェアアップに結びつけることが出来ました。そして、現場を支援する組織として「販売促進部」を設置し、イベント毎に対応した製品と売場の提案など、販売促進活動を更に強化しました。

「継続的なコストコントロール」としては、「ムダとり」によりコストを削減する一方で、中長期視点に立ち、成長に必要なコストを積極的にかけるというコストコントロールを実施しました。具体的には、生産段階における配合の見直しによる歩留まり向上や、生産設備導入による増産体制の強化を進めました。一

方、成長に必要なコストとして、一層の生産性向上・安全安心及び老朽化対策として、設備に関わる追加投資を実施しました。

その結果、当連結会計年度の業績は、売上が329億8百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益15億26百万円（同8.5%減）、経常利益15億16百万円（同9.4%減）、当期純利益7億17百万円（同30.4%増）となりました。

## 今後の見通しについて

消費傾向の多極化、おつまみ市場のボーダレス化、原材料価格の高騰など、第64期におきましても当社グループを取り巻く環境はめまぐるしい変化が続くものと考えています。また、東日本大震災の影響により、複数の当社取引先である資材関連メーカーが被災し、包装資材の調達に支障をきたしており、一時的に流通への製品供給が滞っています。このような状況のもと、当社グループは、以下の施策に取り組めます。

開発面では、ファストサイクルの強化とスピーディーな市場変化への対応を強化すると共に、年1品以上の大型製品を市場投入することを目指して、競争優位なNB新製品を創出していきます。「おつまみ9ジャンル」では、畜肉加工製品と酪農加工製品を「重点ジャンル」に、すなっくな珍味製品とチルド製品を「育成ジャンル」に、それぞれ位置付け、これまで以上に経営資源を傾斜配分し、効率的に製品開発を進めていきます。

生産面では、平成23年3月に立ち上げた「工場合理化推進プロジェクト」を中心に、大胆な工程改善に取り組み、収益力の強化に努めます。

また、震災の影響で表面化したサプライチェーンの課題を踏まえ、原資材調達先の分散や原資材品目別の在庫マネジメントの強化によるリスク低減、海外委託加工拠点の多様化、物流機能の分散などに努めていきます。

第64期は、新たな中期経営計画「チャレンジ&イノベーション66」の最初の事業年度となります。なとりグループは、持続的成長の為に、挑戦と革新を続け、一層の収益力の強化に向けて注力していきます。

# 新たな中期経営計画「チャレンジ&イノベーション66」について

なとりグループは、第64期（平成24年3月期）から第66期（平成26年3月期）までを対象期間とする3ヵ年中期経営計画「チャレンジ&イノベーション66」を策定いたしました。

## ■ 中期経営計画「チャレンジ&イノベーション66」の目指すもの

我々が目指す企業とは、「お客様からご支持を頂き、常に成長し持続していき、社会的に価値ある企業」であります。この“あるべき姿”を目指して、当社グループの従業員一人一人は顧客志向に基づいた仕事を徹底し、競争優位な製品の市場投入によって市場シェアを確保し、生み出した適切な収益を研究開発・設備投資・人材育成・ブランド戦略・グローバル戦略等の前向きな投資等に回して将来に備え、結果として、持続的に利益が出せる企業体質へイノベーションしていき、更に事業を拡大しながら企業価値を向上させてまいります。

### ビジョン

なとりグループは持続的成長の為に挑戦と革新を続け  
"おつまみ"の真のNO.1企業として  
"ひとつまみの幸せ"をお客様にお届けします

## ■ 重点戦略

1. おつまみ市場の深耕とカテゴリーの拡大

4. 海外おつまみ事業の拡大

2. 環境の変化に左右されない収益基盤の強化

5. なとりブランドの浸透

3. 国内おつまみ市場での売上拡大

## ■ 数値目標（第66期連結）

売上高  
**340** 億円

経常利益  
**16** 億円

ROE  
**6.0** %



## 酪農加工製品

# いつでも手軽におつまみチーズ

好評発売中「おつまみチーズ」の第2弾「カマンベールチーズ入り」が新発売！ 第1弾「熟成チェダーチーズ入り」もパッケージをリニューアル！ 4・5月にテレビCM放映！

「おつまみチーズ」は、チーズの豊かな味わいがいつでも手軽に食べられるチーズのおつまみです。

### ●チーズの味わい

おつまみにぴったりなコクのある味わい。しかも常温で持ち運びができるので、いつでもおいしいチーズが堪能できます。

### ●しっとりなめらか食感

濃厚なチーズの味わいをじっくり味わっていただけるよう、しっとりとしたなめらかな食感にしました。

### ●食べやすいひとくちサイズ

ひとくちサイズのツイスト包装で、手を汚さずに手軽に食べられます。

### <カマンベールチーズ入り>

カマンベールの独特なコクや風味を感じながらも、まろやかな味わいが口の中に広がります。

### <熟成チェダーチーズ入り>

英国産熟成チェダーチーズを使用しました。チーズの旨みやコクが凝縮された、おつまみにぴったりの濃厚な味わいです。

### 【開発者のこだわり】

「おつまみチーズ」は、味、食感、食べやすいサイズまで、「いつでも手軽に食べられるおつまみチーズ」にするため、いくつもの試作を重ね、当社独自の技術プラス新技術によって、完成した商品です。例えば、常温でチーズを流通させるという既存技術に、新技術として、なめらかな食感を長期間維持できるようにしています。(特許出願中) 味についても、より多くのお客様に食べていただきたいと思い、バリエーションを増やしました。この商品は、全社すべての力が結集し、こだわって作った、当社が自信を持ってお届けする新しいチーズのおつまみです。



《新発売》



《パッケージデザイン リニューアル》

## 畜肉加工製品

# 生ハムで作ったおつまみロース

「生ハム」で作ったちょっと贅沢なおつまみ！  
当社独自の「レアドライ製法」※でおいしさ凝縮！

人気の「生ハム」のおいしさをギュッと凝縮し、薫り豊かにちょっと贅沢なおつまみに仕上げました。

※レアドライ製法とは？・・・風味や旨味などのおいしさをそこなうことなく、しっとりとした深い味わいのおつまみに仕上げることのできる当社独自の製法です。(特許出願中)

**【開発者のこだわり】**開発には1年以上の月日を費やし、何度も試作・評価を繰り返し、ベストな味・食感を追求しました。「生ハム」の凝縮されたおいしさはもちろん、「1枚1枚はがしやすい」「どこにでも持ち運びができる」など、要冷蔵の「生ハム」には無い、利便性も隠れた魅力のひとつです。新素材「生ハム」+新技術「レアドライ製法」によって誕生した、いままでのおつまみにはなかった新しいおつまみです。



## チルド製品

# くちどけチーズたら イタリアンバジル味

宅配ピザチェーン『ピザーラ』とコラボ！  
人気のピザ「イタリアンバジル」の味を再現！

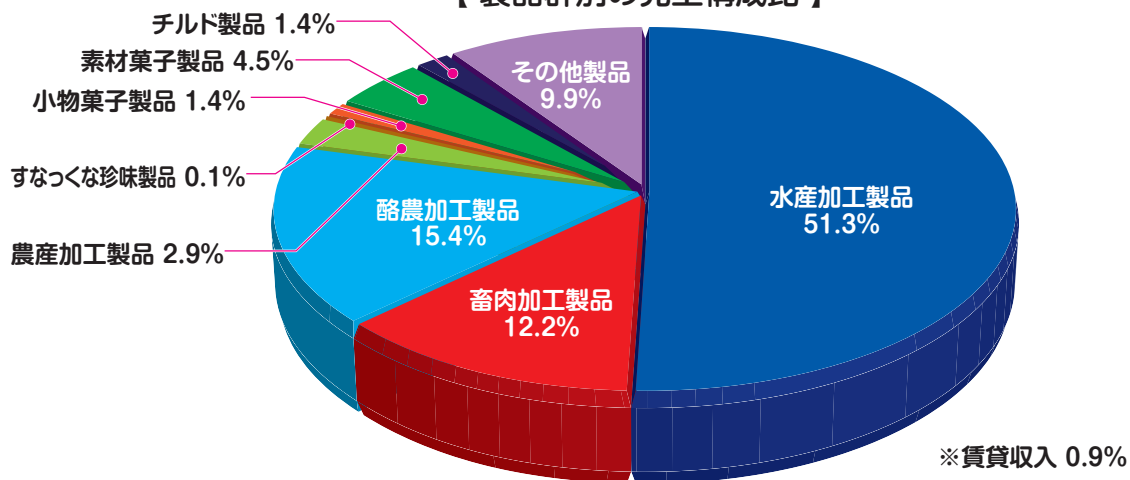
チルドならではのくちどけなめらかな食感が特徴の「くちどけチーズたら」で、ピザーラのロングセラー人気メニュー「イタリアンバジル」のおいしさを忠実に再現しました。

**【開発者のこだわり】**ピザーラで実際のピザに使用されている「トマトソース」を「チーズたら」に練りこみ、トマトの風味たっぷりのおいしさをそのまま再現しました。また、ピザと同様のバジルの風味と隠し味のガーリックで食欲をそそる味付けとなっています。バジルとレッドベルペッパーを混ぜ込んで見た目も赤と緑でピザのイメージを表現しました。



# 製品ラインナップ

【製品群別の売上構成比】



## 水産加工製品



一度は食べていただきたい  
おいしいあたりめ



一度は食べていただきたい  
おいしいさきいか



一度は食べていただきたい  
おいしい皮付いか燻



おいしい  
いかなんこつ



懐かしい甘口  
いかげそ



技の逸品 鮭とば



チェダーチーズ入り  
かまぼこ



帆立貝柱燻製



茎わかめ



いかフライ



うまいいか天

## 畜肉加工製品



一度は食べていただきたい  
おいしいサラミ



一度は食べていただきたい  
粗挽きサラミ



南イタリアの  
おいしいサラミ



ハッピーバリュー  
ジャッキーカルパス



OTSUMAMI 牧場  
ビーフジャーキー



酪農加工製品



一度は食べていただきたい  
熟成チーズ鱈



濃厚チーズ鱈



ハッピーバリュー  
チーズ鱈



おつまみチーズ  
熟成チエターチーズ入り



JUST PACK  
ミニスモークチーズ

農産加工製品



JUST PACK  
柿ピー



JUST PACK  
つぶ餅ピーナッツ



JUST PACK  
ハタビー



ミックスナッツ



カシューナッツ

すなっくな  
珍味製品



ラ・チータ



ラ・チータ ピザ味

小物菓子製品



ペンシルカルパス



ソースカツ



かむおやつ  
ごま付きいりこ

素材菓子製品



梅スッキリ



ねりうめ



ごんぶ飴



するめ昆布



梅&昆布



素材のこころ  
カリカリ梅

チルド製品



くちどけチーズたら  
カマンベール



くちどけチーズたら  
熟成チエターチーズ

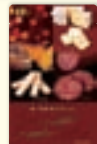


つぼ焼風  
貝の醤油焼き



あさりのバター醤油味

その他製品



おつまみセレクション  
第1弾



おつまみセレクション  
第3弾



酒肴逸品  
焼き貝つぼ焼風味



酒肴逸品  
ひとくちビーフ



むき枝豆

# 財務の状況

## ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円) ※単位未満は切り捨て

	当期末 (平成23年3月31日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
現金及び預金	1,762	2,321
受取手形及び売掛金	5,101	4,929
たな卸資産	3,507	3,487
繰延税金資産	201	207
その他	137	124
貸倒引当金	△1	△12
<b>流動資産合計</b>	<b>10,708</b>	<b>11,057</b>
有形固定資産	13,518	13,803
無形固定資産	146	154
投資その他の資産	824	870
<b>固定資産合計</b>	<b>14,489</b>	<b>14,828</b>
<b>資産合計</b>	<b>25,198</b>	<b>25,886</b>

	当期末 (平成23年3月31日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)
<b>負債の部</b>		
支払手形及び買掛金	2,932	2,764
短期借入金	1,279	1,709
1年内返済予定の長期借入金	671	645
未払法人税等	310	620
賞与引当金	319	299
その他	2,166	2,924
<b>流動負債合計</b>	<b>7,680</b>	<b>8,963</b>
長期借入金	1,507	1,505
繰延税金負債	244	235
役員退職慰労引当金	405	337
その他	658	523
<b>固定負債合計</b>	<b>2,816</b>	<b>2,602</b>
<b>負債合計</b>	<b>10,496</b>	<b>11,566</b>
<b>純資産の部</b>		
資本金	1,975	1,975
資本剰余金	2,290	2,290
利益剰余金	10,959	10,872
自己株式	△509	△815
<b>株主資本合計</b>	<b>14,716</b>	<b>14,322</b>
その他有価証券評価差額金	△14	△2
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>△14</b>	<b>△2</b>
<b>純資産合計</b>	<b>14,702</b>	<b>14,319</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>25,198</b>	<b>25,886</b>

## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円) ※単位未満は切り捨て

	当期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	32,908	31,828
売上原価	21,509	20,590
売上総利益	11,398	11,238
販売費及び一般管理費	9,872	9,569
営業利益	1,526	1,668
営業外収益	74	85
営業外費用	83	79
経常利益	1,516	1,673
特別利益	13	0
特別損失	100	573
税金等調整前当期純利益	1,429	1,101
法人税、住民税及び事業税	691	812
法人税等調整額	19	△262
少数株主損益調整前当期純利益	717	—
当期純利益	717	550

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円) ※単位未満は切り捨て

	当期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,972	2,891
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,672	△1,110
財務活動によるキャッシュ・フロー	△792	△431
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△492	1,349
現金及び現金同等物の期首残高	1,893	543
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△11	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,389	1,893

### ■ POINT

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ5億4千万円減少し、13億89百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローは、19億72百万円の収入（前年同期は28億91百万円の収入）、投資活動によるキャッシュ・フローは、16億72百万円の支出（前年同期は11億10百万円の支出）、財務活動によるキャッシュ・フローは、7億92百万円の支出（前年同期は4億31百万円の支出）となりました。

## ■ 連結株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円) ※単位未満は切り捨て

	株主資本					その他の包括利益累計額 その他有価証券評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
前期末残高	1,975	2,290	10,872	△815	14,322	△2	14,319
当期変動額							
剰余金の配当	—	—	△203	—	△203	—	△203
当期純利益	—	—	717	—	717	—	717
自己株式の取得	—	—	—	△103	△103	—	△103
自己株式の消却	—	△410	—	410	—	—	—
連結範囲の変動	—	—	△16	—	△16	—	△16
利益剰余金から資本剰余金への振替	—	410	△410	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	—	—	—	—	—	△11	△11
当期変動額合計	—	△0	87	306	393	△11	382
当期末残高	1,975	2,290	10,959	△509	14,716	△14	14,702

# 財務の状況

## ■ 個別貸借対照表

(単位：百万円) ※単位未満は切り捨て

	当期末 (平成23年3月31日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
現金及び預金	1,227	1,850
受取手形及び売掛金	4,812	4,633
たな卸資産	3,406	3,390
繰延税金資産	132	151
その他	175	159
貸倒引当金	△1	△11
<b>流動資産合計</b>	<b>9,753</b>	<b>10,175</b>
有形固定資産	10,934	11,259
無形固定資産	142	149
投資その他の資産	1,293	1,359
<b>固定資産合計</b>	<b>12,371</b>	<b>12,769</b>
<b>資産合計</b>	<b>22,124</b>	<b>22,944</b>
<b>負債の部</b>		
支払手形及び買掛金	2,926	2,741
短期借入金	700	1,050
1年内返済予定の長期借入金	554	528
未払法人税等	194	572
賞与引当金	233	218
その他	1,653	2,488
<b>流動負債合計</b>	<b>6,262</b>	<b>7,599</b>
長期借入金	1,157	1,038
繰延税金負債	244	235
役員退職慰労引当金	405	337
その他	504	438
<b>固定負債合計</b>	<b>2,312</b>	<b>2,050</b>
<b>負債合計</b>	<b>8,574</b>	<b>9,650</b>

	当期末 (平成23年3月31日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)
<b>純資産の部</b>		
資本金	1,975	1,975
資本剰余金	2,290	2,290
利益剰余金	9,807	9,846
自己株式	△509	△815
<b>株主資本合計</b>	<b>13,564</b>	<b>13,296</b>
その他有価証券評価差額金	△14	△2
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>△14</b>	<b>△2</b>
<b>純資産合計</b>	<b>13,550</b>	<b>13,294</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>22,124</b>	<b>22,944</b>

## ■ 個別損益計算書

(単位：百万円) ※単位未満は切り捨て

	当期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	30,699	29,599
売上原価	20,762	19,727
<b>売上総利益</b>	<b>9,936</b>	<b>9,871</b>
販売費及び一般管理費	8,703	8,430
<b>営業利益</b>	<b>1,232</b>	<b>1,441</b>
営業外収益	129	128
営業外費用	121	114
<b>経常利益</b>	<b>1,240</b>	<b>1,455</b>
特別利益	12	0
特別損失	84	539
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,168</b>	<b>915</b>
法人税、住民税及び事業税	549	751
法人税等調整額	43	△322
<b>当期純利益</b>	<b>575</b>	<b>487</b>

## ■ 個別株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円) ※単位未満は切り捨て

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
前期末残高	1,975	2,290	9,846	△815	13,296	△2	13,294
当期変動額							
剰余金の配当	—	—	△203	—	△203	—	△203
当期純利益	—	—	575	—	575	—	575
自己株式の取得	—	—	—	△103	△103	—	△103
自己株式の消却	—	△410	—	410	—	—	—
利益剰余金から資本剰余金への振替	—	410	△410	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	△11	△11
<b>当期変動額合計</b>	<b>—</b>	<b>△0</b>	<b>△38</b>	<b>306</b>	<b>267</b>	<b>△11</b>	<b>256</b>
当期末残高	1,975	2,290	9,807	△509	13,564	△14	13,550

# 開発・生産・営業・物流拠点



食品総合ラボラトリー



埼玉工場



メイホク食品(株)



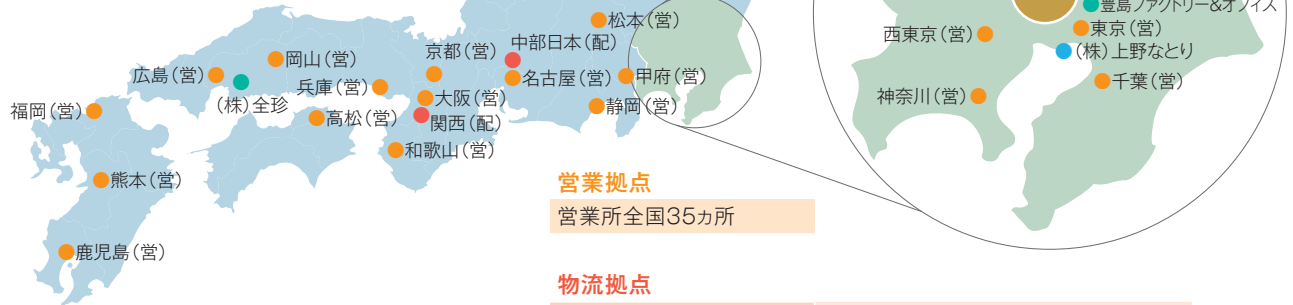
(株)函館なとり



豊島ファクトリー&オフィス



(株)全珍



## 開発拠点

食品総合ラボラトリー 東京都北区豊島8丁目3番3号

## 生産拠点

(株)なとり 埼玉工場	埼玉県久喜市清久町1番6号
メイホク食品(株)	北海道北斗市清水川220番1号
(株)函館なとり	北海道北斗市清水川142番12号
豊島ファクトリー&オフィス	東京都北区豊島8丁目3番3号
(株)全珍	広島県呉市広末広1丁目3番28号

## 営業拠点

営業所全国35カ所

## 物流拠点

首都圏配送センター	埼玉県加須市大桑2丁目23番1
北日本配送センター	北海道札幌市東区北19条東22丁目1番4号
東北配送センター	宮城県仙台市若林区卸町東2丁目2番7号
中部日本配送センター	愛知県名古屋市中区柳森町803
関西配送センター	大阪府東大阪市本庄中1丁目1番33号

## 連結子会社

国内7社



# 会社の概要等

## 会社の概要

(平成23年3月31日現在)

会社名 株式会社なとり  
本社 東京都北区王子5丁目5番1号  
設立 昭和23年6月  
資本金 1,975,125,250円  
従業員数 546名(男子379名、女子167名)

主要取引銀行 三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、商工組合中央金庫、農林中央金庫、りそな銀行、三井住友銀行

## 企業集団の状況

当社の企業集団は、子会社7社を連結対象会社として構成され、おつまみ(おつまみ9ジャンル「水産加工製品」「畜肉加工製品」「酪農加工製品」「農産加工製品」「すなっくな珍味製品」「小物菓子製品」「素材菓子製品」「チルド製品」「その他製品」)食料品全般の製造・販売及び不動産賃貸を主な内容として事業活動を展開しております。

## 役員

(平成23年6月29日現在)

取締役会長	林	徹
代表取締役社長	名取	三郎
代表取締役副社長	名取	雄一郎
取締役常務執行役員	出島	信臣
取締役常務執行役員	小林	眞
取締役上席執行役員	北見	弘之
取締役(社外)	岡崎	正憲
取締役(社外)	中尾	誠男
監査役(常勤)	井沼	克昭
監査役(常勤)	小嶋	利光
監査役(社外)	割出	雄一
監査役(社外)	河合	洸一
監査役(社外)	大野	二郎
上席執行役員	今関	利夫
執行役員	水野	政裕
執行役員	永井	邦佳
執行役員	山形	正
執行役員	鎌田	達夫
執行役員	安田	正伸
執行役員	阿部	覚

## 株主優待につきまして

平成23年3月31日現在、当社株式を100株以上保有の株主の皆様に対して、よりすぐりの商品を贈呈いたしております。

### ■優待内容

100株以上1,000株未満 2,000円相当  
1,000株以上 3,000円相当

なお、優待品は定時株主総会終了後に発送いたしますので、皆様の手元へお届けするのは7月上旬になる予定でございます。何卒ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。



2,000円相当



3,000円相当

# 株式の状況

(平成23年3月31日現在)

## 株式状況

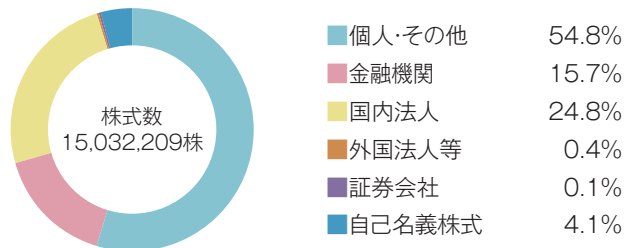
発行可能株式総数	40,000,000 株
発行済株式の総数	15,032,209 株
株主数	28,231 名

## 大株主

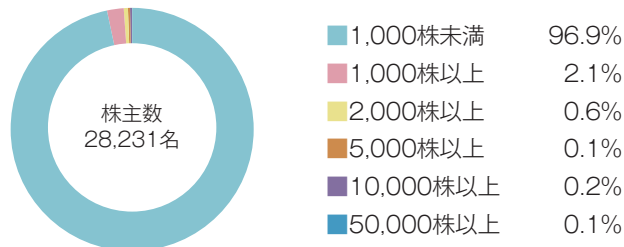
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社名旺エステート	1,991,300	13.2
有限会社メイオウ	837,336	5.6
名取三郎	678,808	4.5
横山よし子	672,684	4.5
名取雄一郎	545,100	3.6
なとり取引先持株会	481,420	3.2
なとり社員持株会	457,460	3.0

注) 上記のほか当社所有の自己株式619,680株があります。

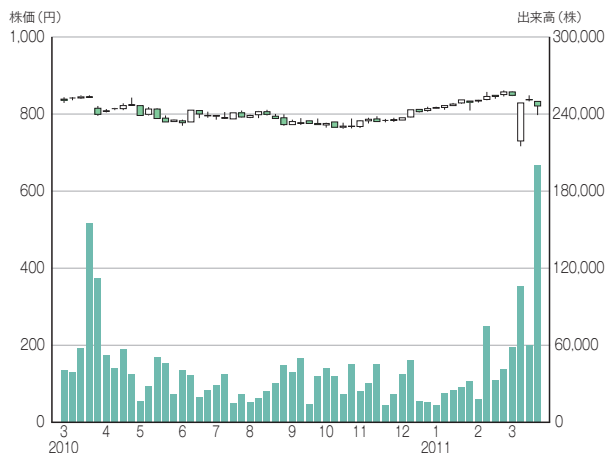
## 所有者別 (株式数比率)



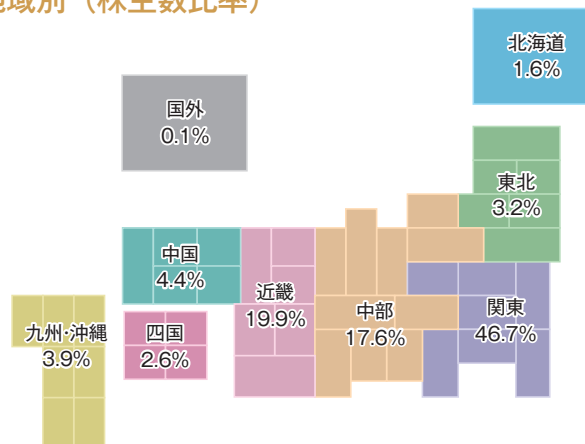
## 所有者株式数別 (株主数比率)



## 株価チャート



## 地域別 (株主数比率)



# 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
特別口座の口座管理機関	中央三井信託銀行株式会社
同連絡先	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告の方法によります。 ただし電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告ホームページ <a href="http://www.natori.co.jp/koukoku/index.html">http://www.natori.co.jp/koukoku/index.html</a>



HOME PAGE <http://www.natori.co.jp/>

## (ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行株式会社）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、中央三井信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、中央三井信託銀行株式会社にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社ではお手続きできませんので、ご注意ください。
3. 未受領の配当金につきましては、**三菱UFJ信託銀行本支店**でお支払いいたします。

株式会社 **なとり**

〒114-8611 東京都北区王子5丁目5番1号

